



三股駅に飾られた門松

国鉄職員OBの手で門松を

国鉄職員OB会は、毎月25日に三股駅構内の清掃及び花の植え付け休憩所の壁の補修等を行い、今年で6年になるということです。いつも利用される方々の気持ちが和らぐように行っているとのこと。

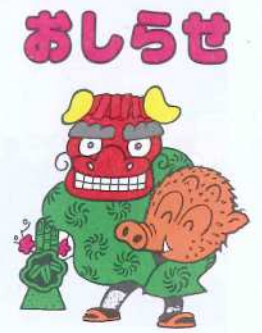
(一言) 休憩所の壁に落書きをしたり、壁を破ったりしないようにしましょう。

今月の内容

年頭のごあいさつ	2~3
平成5年度一般会計決算報告	4~5
ふるさとまつり	6~7
交通安全啓蒙駅伝大会	8~9
国際交流・生涯学習フェスティバル	10~11
ふるさとへの便り	12
子供の声を聞く会	12~15
順いの日々	16
町のあれこれ	17
お知らせ	18



第16回健康走ろう会
 日時 1月22日(日)
 受付 午前8時30分
 開会式 午前9時
 場所 三股町中央公民館前
【種目】
 ・小学1~2年男女・1km
 ・小学3~4年男女・1.5km
 ・小学5~6年男女・2km
 ・中高生女子・2km
 ・中高生男子・3kmと5km
 ・一般女子・2km
 ・一般男子・3kmと5km
 ・ファミリージョギング(12歳以下の子供とその家族)・2km
 参加料 一人につき50円
 ※申込は、1月19日(木)までに教育委員会生涯学習課へ



今月の納税

県町民税 4期
 保険税 5期

口座振替を利用しましょう。

「わが家の家計簿・生活設計」体験談の募集
内容 家計簿をつけた経験ある人は生活設計を立てた経験のある人。いずれかの体験談であれば内容、タイトルとも自由です。
例えば
 ○家計簿をつけ始めたきっかけ
 ○記帳する上での苦心やアイデア
 ○家計簿をつけたことによる生活の変化
原稿
 ①2,000字(原稿用紙5枚)
 ②応募者の名前、郵便番号、住所、電話番号、職業、年齢を必ず記載下さい。
 ③家計簿体験談には支出内訳表、生活設計体験談に生活設計表を添付。
募集期間 2月末日まで
送り先 宮崎県貯蓄推進委員会
 宮崎市橘通東4-13-15
 ☎0986-2316241

☆社会福祉事業功労者
 横山 次男
 荒武 行男
 黒木 博
 轟木 アヤ子
 児玉 ツギ
 白井 ミツ

☆社会福祉事業奉仕者
 このほど社会福祉事業に貢献された方々に対し、宮崎県知事表彰がありました。
 受賞者は次のとおり(敬称略)

おめでとう

宮崎空港の利用促進について
 一昨年、広島路線が開設されたのに続いて、昨年9月4日からは全日空、日本エアシステム、日本航空の3社によるトリプルトラックや全日空の関西国際空港への路線の開通により、東京、関西地区への路線や国際線への乗り継ぎが便利になるなど、宮崎空港がますます充実いたしました。
 今後も引き続き現在の路線を維持し、さらに増便や新しい路線の開通を実現していくためには、宮崎空港を利用する方が増えていくことが重要ですので、皆様方の積極的な利用をお願いいたします。

一般寄付

柳田賀門さん他5名 3万円
 三股町みようが組合から社会福祉事業に役立ててくださいと寄付されました。ありがとうございます。

2月の休日 (中央公民館図書室)

週	日	月	火	水	木	金	土
①				1			
②		6	7				11
③		13	14				
④	19		21				
⑤		27	28				

数字は休みの日。19日は第3日曜日。

1月の休日 (中央公民館図書室)

週	日	月	火	水	木	金	土
①	1	2	3	4			
②		9	10				
③	15	16	17				
④		23	24				
⑤		30	31				

数字は休みの日。15日は第3日曜日。

愛のご寄付

三股町社会福祉協議会では、忌明け寄付を次の通りいただきました。故人のご冥福をお祈りいたしますと共に、社会福祉発展のために有意義に利用させていただきます。誠にありがとうございます。

寄附者	続柄	故人名	地区	金額
原口 和典	母	フデ	上米	5万円
清水 邦雄	妻	アツ子	上米	3万円
政野 ハル	夫	藤蔵	東原	3万円
新坂 タチ子	夫	勝	前首	3万円
上水 肇	妻	ソナ	森木	2万円
久松 澄江	夫	重利	中米	20万円
中野 イツ子	夫	四夫	山王原	10万円
南崎 義人	母	フチ子	大鷲巣	3万円
橋口 虎斗男	姉	上村フク	仲町	3万円
中内 利盛	母	エイ	前首	2万円
吉行 アツ子	母	アキエ	中米	2万円
宮越 テル	母	フシ	下新	2万円
お詫び			梶山	3万円

11月号の愛のご寄付で補原室彦さんの地区を梶山に訂正してお詫びいたします。

三股町の人口

平成6年12月1日現在
 男 10,796人 出生 19人
 女 11,668人 死亡 18人
 計 22,664人 転入 135人
 前月比+65人 転出 71人
 世帯数 7,751戸(+29戸)

年頭のごあいさつ

謹んで新春のお慶びを申し上げます



町長 山元 勝博

町民の皆様には、希望に満ちた新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は一方ならぬご支援・ご厚情を賜り、お陰をもちまして今後4年間、伝統ある三股町政を担当することになりました。心から厚くお礼を申し上げます。

年頭に当たり、その責務の重大さを改めて自覚するとともに、皆様から寄せられた信頼と期待に応えるため、「やさしいまち「三股町」づくりをモットーに「誇れる三股町」に全力を傾注していく決意を新たに次第であります。

ご承知のとおり、本町は都城市のベッドタウンとしての地の利と住環境に恵まれ、植木や稗田など西部地域を中心に人口が増加しており、町人口も近々2万3千人に達しようとしております。増加率

においても県内の町村では清武町に次いで第2位です。しかしながら一方、長田や梶山など東部地域では年々人口が減少してさまざまな問題が生じており、東西間の格差は正が町政の重要課題となっております。

激動する社会情勢の中にあつて、他に後れることなく、常に時代を先取りして町の均衡ある発展を図り、「活力ある三股町」を21世紀にバトンタッチしていくことが、町政担当者課せられた使命ではなからうかと考えます。このため現在、中・長期的展望にたった町づくりを遂行するため、西暦2000年を目標年次とする第3次町総合計画に基づき事業を実施しているところであります。当面する主な事業といたしましては、

ごみ対策等で社会問題になっている一般廃棄物処理場整備事業、上米公園等整備事業、第6地区公民館建設事業、中原集会所建設事業などがあり、町議会のご理解・ご協力を賜りながら来年度の事業として取り組みたいと考えております。

また、豊かなゆとりのある文化生活を実現するため、講演会やコンサート、研修会などができる文化ホールを併設した図書館を建設

し、心豊かな人間性を培うとともに「文教の町三股町」の復活を目指したいと考えております。

このほか、道路や都市下水路・雨水対策などの生活環境整備、生涯にわたる福祉対策、農畜産業や商工業の振興など諸事業全般にわたり、皆様の御意見・ご要望を広く拝聴しながら最善の努力をいたす所存であります。

どうか今年も、町政発展のためなお一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、この平成7年度が皆様にとって最良の年となりますよう心からお祈り申し上げます。年頭にあたつてのごあいさつといたします。



下水道船団方式事業の覚書調印

新年あけましておめでとうございませう



議長 山領 征男

町民の皆様には、日頃から町政に対する暖かいご理解と絶大なご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私も議員一同は、それぞれ町政に携わる一員として、常に世論の現状を把握し、時代に即応した計画的、総合的な行政を推進し、町民の皆さんの豊かな生活と明るい暮らしが出来ますよう、意を新たに、町政発展のため努力いたす所存であります。

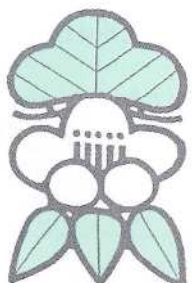
ご承知のとおり、わが国の社会情勢は、21世紀を目前に控え国際化、情報化、少子・高齢化が急速に進行しつつあります。また経済においても、昨年来より、個人消費の伸び悩み、設備投資の低迷に、急激な円高なども加わって、景気の回復の様相を呈しているといふものの、未だに厳しい状況下にあります。

また、地方財政をとりまく状況も景気低迷の影響を受け、引き続

き厳しい状況であります。住民の要望は多様化し、質的にも大きく変化してきており、社会福祉の充実、地域づくりの推進、生活関連施設の整備等、地域の実情に即した各種施設の推進を図ることが求められています。

このような中、私も議会人としていたしましては、国、県に対しその対策を強く働きかけるとともに、議決機関といたしまして、町民の皆様の要望に応えるとともに、生活の安定向上のため今後さらに創意工夫を重ね、研鑽に努め皆様方のご期待にそぐべく、決意を新たにいたしております。

本年も相変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、心からお祈り申し上げます。この一年が、皆様にとって最良の年でありまようお祈り申し上げます。年頭のあいさつといたします。



成人おめでとう

夢をもち

それを抱き続ける

子どものころ、「大きくなったら何になる?」と聞かれ、「お医者さんになる」と作文に書いたのは、たしか小学校4年生のときでした。そのころ、すぐ下の弟が、高熱で骨が弱くなるという難病にかかっていました。母は足にギブスをはめた弟をおんぶし、東京への病院通いを続けました。そんな弟を見ながら育った私は「医者になりたい」と心に決めたのです。ゴールを決めたなら努力する――

あとはケ・セラ・セラ(どうにか)という、生来の楽天的な性格が、医者になる夢を現実のものにしたのではないのでしょうか。

好奇心から

宇宙飛行士に応募

いくつになっても、夢をみられたら最高――そう思っていた私に、宇宙へ飛び立てるチャンスが巡ってきたのは、本当に偶然の出来事でした。ある朝、新聞を開くと「宇宙飛行士募集」という小さな記事が目につきました。いまから十年前、三十二歳のときでした。宇

新成人に贈ることば

宇宙開発事業団宇宙実験搭乗部員 向井千秋

宙から地球を見たら、どんなにきれいだらう――その記事を切り抜いて、財布にしまっておいた私は、応募締め切りの前日ぎりぎりで、願書を投函したのです。それは「チャレンジ精神」というよりも、「好奇心」でした。もつと正直に言えば、宝くじを買って手にしたときのような、駄目でもともとという気分でした。

ところが奇跡が起り、宇宙への切符を手にしたのです。そして壮大な夢が、突然身近なものとなりました。

自分のやりたいことをスタートさせる

人間の能力には

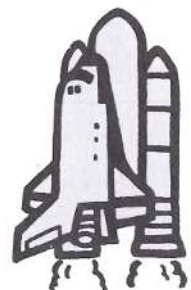
それほど差がない

医学と宇宙に接点を見いだすことのできた三十二歳は、私にとって人生の大きな分岐点となりました。

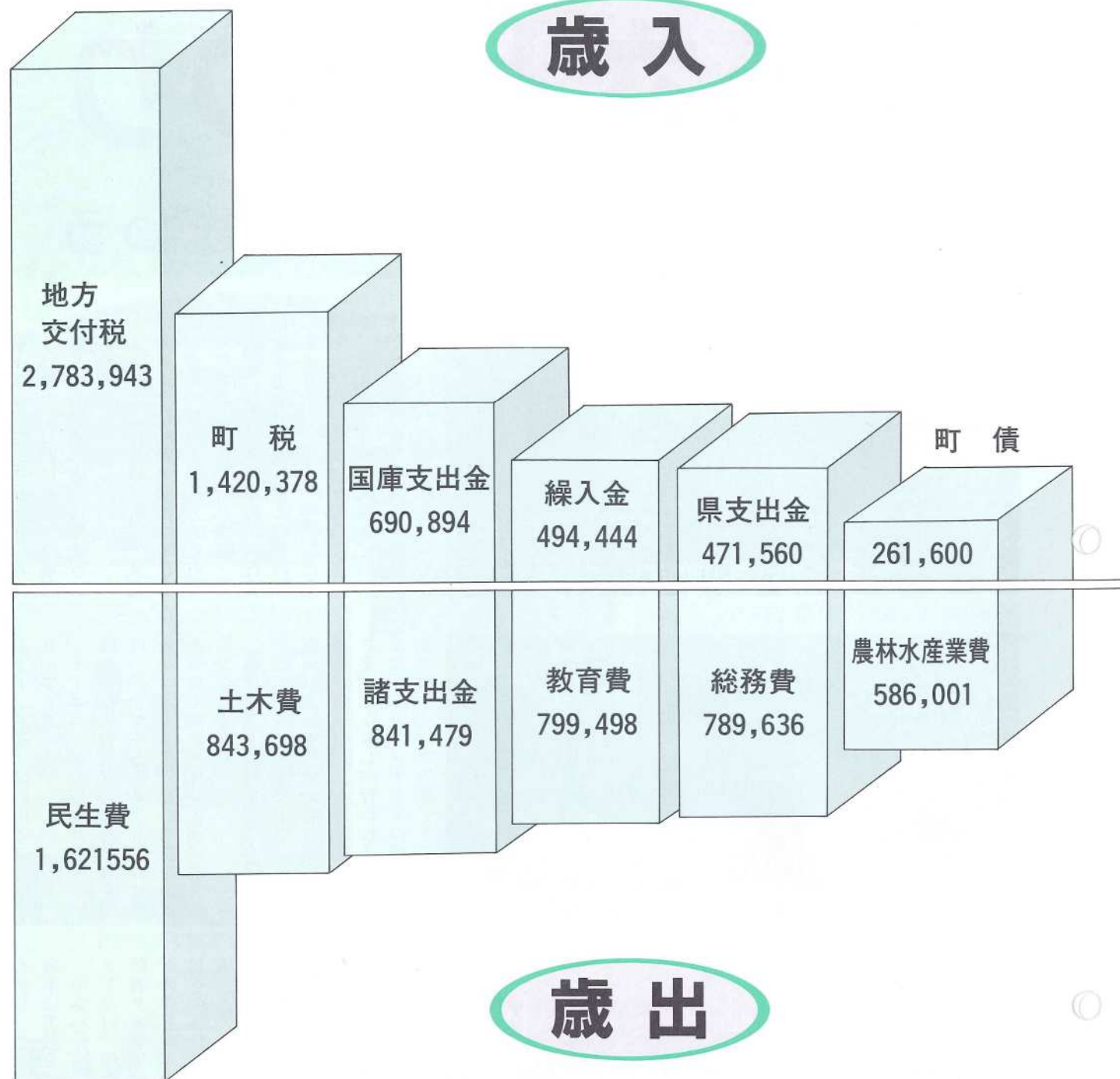
こうした経験から、二十歳になられた皆さんに言えることがあるとすれば、結果がどうあれ、自分がやりたいと思ったことを、ためらわずにスタートさせることです。

"If you can dream, you can do it"――あなたが夢や希望をも

自分の中に夢をもち、それを抱き続けることができるかどうかなのだと思います。成人を迎えられた皆さん、小さな夢や大きな夢を大いに心に抱いてください。



歳入



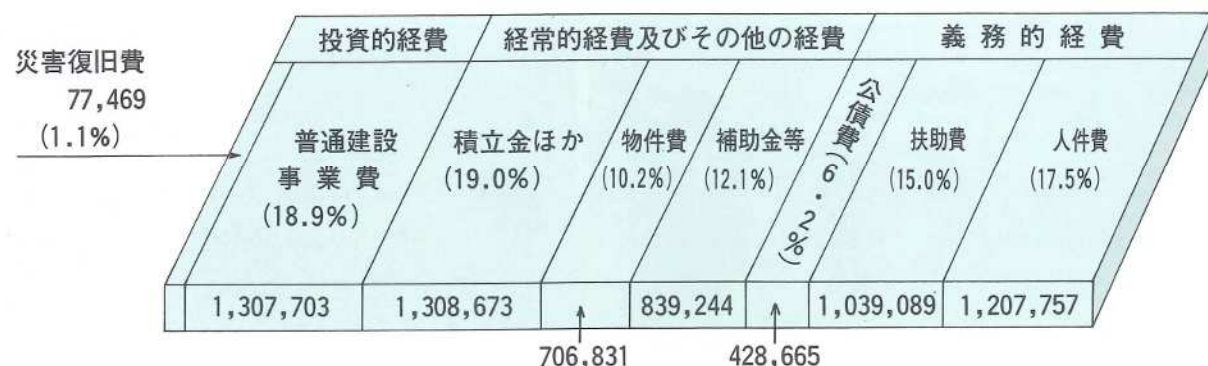
歳出

歳出

経費別内訳

(統計分析による)

単位：千円



歳入総額

7,093,821千円

単位：千円

- ・使用料及び手数料 119,936
- ・分担金及び負担金 167,090
- ・諸収入 111,814
- ・財産購入 92,895
- ・自動車取得税交付金 75,460
- ・その他 178,776

地方譲与税

225,031

その他

745,971

衛生費

507,224

公債費

428,665

その他

497,674

- ・災害復旧費 84,747
- ・消防費 175,687
- ・議会費 90,276
- ・商工費 146,964

歳出総額

6,915,431千円

歳入

自主財源・依存財源の内訳

自主財源 (35.9%)

町税や使用料、手数料、財産収入などのように、地方公共団体が自らの意思に基づいて徴収するもの。

依存財源 (64.1%)

地方交付税や国庫支出金などのように、国や県の意思決定で地方公共団体に交付されるものです。

平成5年度一般会計

歳入歳出決算

平成6年12月、議会定例会で認定。
これをもって町条例「財政事情の公表」にかえます。

平成5年度一般会計歳入歳出決算の状況を次のようにお知らせします。

平成5年度三股町一般会計決算は、歳入総額7,093,821千円(対前年比2.2%増)歳出総額6,915,431千円(対前年比1.7%増)、歳入歳出差し引き178,390千円となっています。構成内容を見ると、歳入では町税を柱とする自主財源は35.9%と財源基盤は弱く、依存財源が64.1%と高い比率を示しています。一方、歳出の経費別内訳では義務的経費が38.7%、投資的経費20.0%、經常的経費及びその他の経費41.3%の割合となっています。

平成5年度の主な建設事業

(単位：千円)

第7地区公民館新築事業	128,737
長田峡橋梁歩道整備事業	67,536
山王原早水線雨水対策事業	51,529
三股駅小鷲巣線道路改良事業	48,182
梶山農業集落排水事業繰出金	40,408
稗田コミュニティー建設事業	31,989
県営畜産環境整備事業	28,381
山王原上米線街路事業	26,332
合併処理浄化槽設置整備事業	24,990
椎八重公園整備事業	22,960

特別会計決算

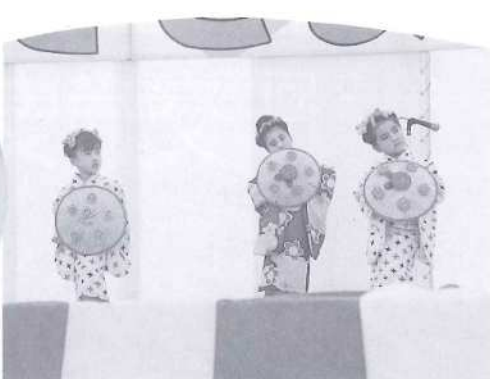
国民健康保険特別会計	歳入 15億1,152万円	歳出 13億3,086万円
老人保健特別会計	歳入 14億4,135万円	歳出 14億0,613万円
農業集落排水事業特別会計	歳入 3億4,166万円	歳出 3億3,670万円



カラオケ歌合戦



司会者



「かわいい」と会場から歓声が



フリーマーケットコーナー



給食展示試食コーナー



マジックで観客を魅了



新沼謙治



サイコロステーキ券を求めて長い列



郷土芸能(棒踊り)



小中学校展示会場にて



おたのしみ抽選会、さて優等賞は誰に!



地場産品即売大にぎわい

ふるさとまつり

35,000人のにぎわう



オープニングにてクス玉が見事に割れる

第4回ふるさとまつりが11月12日、13日の2日間にわたり役場駐車場を中心に盛んに開催されました。

ふるさとまつりは、町民の産業の発展と文化活動の発展の場として、豊かで住みよい活力ある町づくりを進めようと、町と農協・商工会・文化協会・各種団体が実行委員会を組織して取り組んだもの。

まつりでは、オープニングに先立ち小学校の鼓笛隊を先導に保育園、婦人会、自治公民館など19団体が早馬神社から会場まで仮装したり、いろいろな趣向を凝らしパ



三遊亭歌之介師匠

レード。沿道には黒山のひとだかりができました。

オープニングセレモニー後、三股中学校吹奏楽部の演奏で幕を開け、続いて三遊亭歌之介師匠によるテンポある鹿児島方言を入れた落語で観客を笑いの渦に巻き込んでくれました。

13日は、メインステージでマジックショーやMRTラジオ公開録画によるカラオケ歌合戦、新沼謙治ショー、お楽しみ抽選会などさまざまな催しが行われました。また、101メートルの焼肉台を使ったサイコロステーキの試食会



聞きいる観客

もあり、2500人が最上級の都城牛に舌鼓を打ちました。

中央公民館・勤労者体育センターでは、保育園、小中学校、高齢者クラブ等による絵画や書道などの作品展示があり、お客さんの目を引きつけました。四半的弓道場(学校給食展示試食コーナー)・五本松公園(ふるさと自慢鍋試食コーナー)が設けられ、大盛況でした。沿道では、農畜産物や地場産品が展示即売され、まつりは2日間、延べ3万5千人の出入でにぎわいました。



第8地区による仮装パレード



園児のパレード

第3回 交通安全啓蒙駅伝競走大会

第6地区3連覇達成



6地区早くも独走態勢？(7区)



10区でのトップ争い



17区で6地区がトップへ

元気よく選手宣誓



福永絵美里さん



一斉にスタートする選手



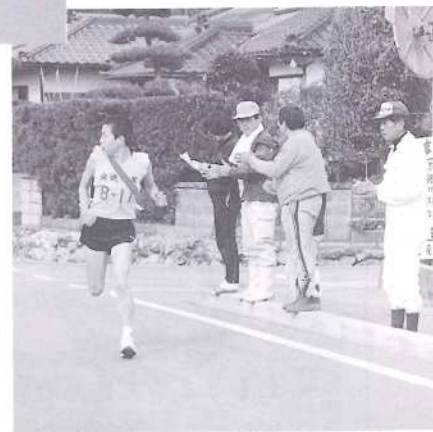
力走する警察署チーム



ラッパ隊を先導に交通安全パレード



親子4人で出場した野崎さん



後のランナーを気にしながら



胴上げされる6地区アンカー



同時に仲良くゴール



沿道の声援はうれしい

第3回交通安全啓蒙駅伝競走大会が12月4日、役場正面前をスタート・ゴールとする25区間、約33キロメートルのコースで行われ、第6地区が栄冠を手にしました。

この駅伝競走大会は、交通安全に対する町民の意識を高め、交通事故・違反のない明るく住みよい町づくりを進めようと町と交通安全協会三股支部・体育協会が自治公民館連絡協議会の協力を得て開いているものです。

大会には、各地区代表の9チーム、オープン参加の都城警察署チームの計10チーム、250名の選手が参加。開会式で6地区の福永絵美里さん(小学3年)が力強く選手宣誓した後、午前10時10分ピストルの合図でスタート。小学低学年から高学年、中学生、青年、壮年へとリレー形式で次々にタスキを受け継ぎました。

大会は、町内をほぼ一周する形でコースが設定されており、中継所や沿道には大勢の町民が詰めかけ、「ガンバレ!」「もう一息!」と大きな声で声援。声援を背に選

ム、オープン参加の都城警察署チームの計10チーム、250名の選手が参加。開会式で6地区の福永絵美里さん(小学3年)が力強く選手宣誓した後、午前10時10分ピストルの合図でスタート。小学低学年から高学年、中学生、青年、壮年へとリレー形式で次々にタスキを受け継ぎました。

大会は、町内をほぼ一周する形でコースが設定されており、中継所や沿道には大勢の町民が詰めかけ、「ガンバレ!」「もう一息!」と大きな声で声援。声援を背に選



3連覇を達成した選手、役員

手たちは至るところでデッド・ヒートを展開していました。結果は、第6地区が接戦を制して3連覇を達成しました。また、申告タイムでは第7地区が実走とわずかに11秒の誤差で1位になりました。

大会順位

申告タイム順位

(あらかじめ申告していた時間に近い順位)

区間賞

【1区 800m】	小八重みずき・3分17秒
【2区 800m】	黒木 托・3分21秒
【3区 800m】	時任 りな・2分51秒
【4区 800m】	藤村康隆・志々目 真・3分11秒
【5区 1km】	松山ひとみ・3分30秒
【6区 1km】	吉留 貴之・3分10秒
【7区 1km】	黒木 千草・3分34秒
【8区 1km】	森 拓郎・3分18秒

【9区 3km】	早田 賢二・10分11秒
【10区 1.5km】	山崎ミナ・5分25秒
【11区 3km】	坂元 克也・10分36秒
【12区 1.5km】	堀内まどか・5分23秒
【13区 1.5km】	白尾 洋行・4分26秒
【14区 1.5km】	堀内あすか・5分15秒
【15区 3km】	坂元 信哉・9分36秒
【16区 1.5km】	下石美代子・6分17秒
【17区 3km】	嘉藤 正純・10分43秒
【18区 1km】	黒木 瞳・3分46秒
【19区 1km】	和気 進・3分06秒
【20区 1.5km】	鍋倉 隆治・4分46秒
【21区 500m】	森山 洋子・1分49秒
【22区 1km】	中西 浩二・3分30秒
【23区 500m】	加寛 幸雄・1分38秒
【24区 400m】	和田 一則・1分06秒
【25区 300m】	藤元 久次・56秒

紙面国際交流コーナー

里帰りの感想



● リエントリー ショック

リエントリーショックとは、母国で受けるカルチャーショックみたいなものです。普通は、カルチャーショックという、外国に行ったときにその国の文化が母国と違うことに驚かされるということですが、リエントリーショックは、外国の文化に気づかないうちに慣れてしまっ

て母国に帰ったとき、自分の変わったところに気づき、驚かされることです。僕の場合、リエントリーショックを初めて受けたのは、関西国際空港を出る飛行機の中でした。飛行機の中でスチュワーデスは僕の顔に腕が当たったと勘違いして、"Oh I hit you I'm so sorry."とあやまりながら痛み

● 半分なつかしく、半分新しく

2年3ヶ月ぶりに里帰りをし、もちろんいろいろ変わっていましたが、その変わってないところでもなつかしいと思いがけながら新しいような感じもしました。子供のときに何万回も食べた物を今度食べた時は、なつかしいと思いがけながら、初めて食べるような複雑な感じがしました。

ふるさとまつり

国際交流コーナー大盛況

11月13日のふるさとまつりで都北国際友好クラブ（IFC）が国際交流コーナーを開きました。

IFCとは、International Friendship Clubの略です。1994年5月に私的団体として発足しました。その目的は日本人と外国人との国際交流を図り、友情を育てるもので、月に1度の割合で様々な行事を催しています。

そのIFCメンバーとまつりの役員が一緒になって前日から3種類のデザートを作り出しました。一つは、バナナ・ナッツ・ブレッドというバナナ、くるみや小麦粉が入っている多少甘いパン類デザートでした。ドーナツは山崎の英語指導助手リサ・カールソンが考案したものです。ドーナツは5種類作りましたが、その中でじゃがいもを使った「おばあちゃんのだーナツ」もありました。最後に、グラノーラという覚えにくい名前をつけた穀類、ナッツ、乾燥果物などの混ぜ合わせ。それは、現在実施中のアメリカ料理ふれあい教室の講師キンバリー・ハフマンが考案してきたものです。



試食してもらいました。「おいしい」「一体何が入っているの」と料理の評価はまちまちでしたが、異文化にふれることができ、町民に好評のようでした。

参加したIFCメンバーも「楽しかった」「またしてみたい」と喜んでいました。

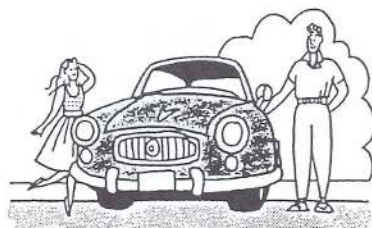
グレンの一口英会話

All is fair in love and war. 背に腹

All is fair in love and war. (恋愛と戦争ではすべてが正当化される、どんなことをしても許される。) 日本には「恋はし勝ち」というのがある。

友人の陰口をきくことは、一般には恥すべき行為だが、ひとりの女性をめぐって恋愛のライバルになった場合、当の女性の前で友人の棚おろしをしても、しかたがないと大目に見てもらえる。それをことわざらしく、「公正なり」としたところがおもしろい。

もともとまるで性格のちがう恋愛と戦争をいっしょにして、手段を選ばぬ点では同じだとしたところも気がきている。最も、戦争だからといって、非人道的なことが許容されてはいけない。そのために、国際法があるではないか、と理屈を言う人がいるけれども、ことわざはきれいごとでなく、本音をずばりと言いつけるところが魅力である。現実のみにくいところにフタをしないシタカカさがある。Necessity Knows no law. (必要の前には法も無力＝背に腹はかえられぬ) も同じような超法規についてのことわざである。



てしましました。今度、仕事が終わりアメリカに帰って、大学院に行く時にちゃんと運動もしなければいけませんね。その時には、きつと日本料理もこいしくなるでしょう。

都城東高校で講話

さきほど都城東高校（松田義信校長、生徒948名）の学園祭で、国際交流員グレン・アンダーソンは「日本の高校生に求めるもの」というテーマで講話しました。



「う。」という内容でした。日本での生活、自動車の車検制度、日本語を覚えるコツなどの質問が出ました。

第5回 三股町生涯学習フェスティバル

11月27日、勤労者体育センターにおいて生涯学習フェスティバルが開催されました。「国際化の風」を生徒学習のテーマで、パネラーとして蓬原正三さんを始め5名の方々より、それぞれの立場で体験を通して国際交流について発表がありました。



蓬原 正三

国際化の波は昔からあり、国際化の社会の到来があった。これからは、外国の人との関わりが多くなると思われ、外国人との精神的距離感をなくしていくことである。



月野 琳 娜

人間の心は、どこの国の人達でも同じである。言葉は使えなくても心の暖かさは通じ合う。言葉よりも心である。



北川 めぐみ



小牧 照子

自分の国を見つめ直し理解するとともに、外国のよさを取り入れていくことである。そして、積極的に外国への対応をしていくことである。

今まで以上に外国の人に声をかけて欲しい。話し合うことと親切さが大切である。



司 会
甲 斐 英 明



グレン・アンダーソン

心の中の国際化を目指していく



ふるさとへの便り

佐澤 明博 (42)

(下新出身)



街並みの樹々も冬支度を終え、本格的な寒さに備えています。皆様いかがお過ごしでしょうか。

両親(四雄、ナミ)は、下新に在住しています。

現在42才、高校卒業後、約4ヶ月間田舎で浪人生活。兄の帰国に合わせて千葉県の兄宅に居候。

上京しては24年にもなります。東京で結婚(カミさんは東京練馬出身)1男(小学4年生)・1女(小学2年生)の4人家族。こちらには兄(栄二)・姉(紘子)、森さん夫婦、イトコ、友達など多

くの人が居ます。年に数回しか会えないのが現状、その場合は三股弁を喋りますので、訛が取れず鹿児島出身ですかとたずねられますが、訛を誇りに思っています。

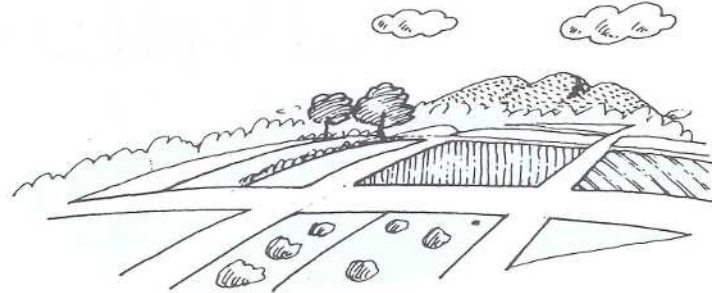
今年夏2年ぶりに帰省、宮崎空港から高速道路で三股に帰るバスの車窓から霧島山が見え、山頂は雲に隠れてはいましたが、久しぶりに見る姿は、日本の代表的な山、富士山に勝るとも劣らない山田舎に帰ってきた実感がわきます。

子供の頃、田圃の畦道を散歩しながら岩下橋へ、ここから見る風景が最高です。

現在、埼玉県新座市(松平家の菩提寺が有る平林寺が有名)に住んでいます。

子供達は塾の合間、近くの公園でサッカー等で遊び、夕方5時、市の公報スピーカーから流れてくる音楽で我が家へ。

それに比べて、ファミコンやポケットボーイのなかった少年時代は、外で遅くまで遊び回り良く父親に怒られ、テッポウの玉(出かけた後戻ってこないから)だと言われたことを懐かしく思い出します。未だに性格は変わっていません。



福永町長から山元新町長へバントタッチされ、ぬくもりの有る町政が行われる事を期待しています。

次は大石三世子さん(旧姓：林東原出身)にリレーします。

子どもの声を聞く会 (その2)

きれいな町づくりへの一つの提案



宮村小学校 6年 月野 亜矢子

「ごみの「投げ捨て」「ポイ捨て」「不法投ぎ」などの言葉を、最近よく耳にします。先日、ニュース番組でごみ問題のことを放送していました。

若いカップルや家族連れが、公園などへピクニックに行きます。また、キャンプなどにも利用しています。キャンプなどに行くのは私も好きです。でも、そこに来る人で、ごみをそのまま捨てて帰る人がいるのです。

大人が、ごみを平気で捨てると、それを見て子供まで「捨てていいのよ」と思ひこみ、ごみを平気で捨てるようになってしまいます。

「ごみをどこにでも捨てる人は、自分のきれいな心も一緒に捨てている人だ。」という言葉聞いた

ことがあります。ニュース番組を見ながら、その言葉を思い出しました。

私の通う宮村小学校でも、よく下級生などが、休みの日や家に帰ってからなど、学校に遊びに来ます。しかし、その時におかしなものを食べて、食べたかすやごみなどをそのまま学校の運動場などに捨てて帰る人がいるのです。そのことでよく先生に注意されます。

でも、まだごみは目につきます。もちろん、先生の話をきちんと受け止めている人もいます。以前よりは、ごみの数はずっと少なくなりました。また、クリンタイムの時間には、全校のみんなが学校の近くの道路をきれいにしようという取り組みがあります。しかし、毎回袋いっぱいになるごみを見てみると、複雑な気持ちです。

人間はゴミに対して3種類に分けられるのではないのでしょうか。一つはごみを平気で捨てて、拾おうともしない人。二つ目はごみ問題をわかっていて捨てるけどつい捨ててしまったり見過ごしてしまう人。三つ目はごみを捨てないし、ごみを見つけるとすぐ拾える人です。今の私はどちらかというと、

大人になったら 農業を継ぎたい



長田小学校 6年 飛松 和貴

ぼくの家族は、祖母と父母そして3人の兄がいます。父は、農協の山之口支所に勤めています。一番上の兄は、高校を卒業して今は道路を建設する仕事に就いています。2番目の兄は、農業高校の土木に進学しています。3番目の兄は、電車通学で日南学園高等学校です。2番目の兄は、試験に合格すれば福岡県に勤めに入ります。

母は、農業をやっている今、ハウスでピーマンを作っています。祖母は、家にある畑を作っています。兄3人は、みんな農業を継ぐ気がないようです。それでぼくが農業を継ぐことにしました。

ぼくは、あまり農業のことを知りません。ですから、高校、大学と進学して農業のことを覚えていこうと思います。今、残り少ない小学校生活と中学校生活の3年間で、数学や漢字、その他いろいろな学習に真剣にとりくんで学力を身につけるよう努力していきたいと考えています。

私の将来



三股西小学校 6年 大村 恵

「ガラガラ」と聞志を燃やし、団長の安藤君を先頭に赤団が入場してきました。力いっぱい手、足をふり元氣いっぱい赤団のみなさんです。今年こそ真つ赤な火の鳥となつてがんばり、優勝したいと思っています。

これは今年の、運動会の行進で、私がアナウンスした原こうの一部です。

私の、将来の夢は、アナウンサーになることです。そして、世界各地を飛び回って、さまざまな問題について、レポートし全国の人に伝えるとともに、世界のことに関

心をもってもらうことです。

私が、アナウンサーになろうと思ったのは自分をもっと多くの人に知ってもらいたかったのもありますが、アナウンサーになつて、話すことの楽しさを、知ってもらい、自分のよさをアピールできるような人が増えていってほしいと思ったからです。

私は、自分のことをいつも、元気で明るく思っています。そして、自分を表現したり、アピールするのが大好きです。発表をした後など、友達からよく「声が大きいわね」「とっても勇気があるね」などと言われます。母からも「あなたは、度胸があるんだね」と感心したように、ほめられることもあります。

5年生の頃は、学校の観劇会で、子役に立候補し、劇団の人にまじって演技をしました。自分でも、満足のいく演技だったと思います。こういう性格なので、私はアナウンサーにぴったりののではないかと、思います。

私は、アナウンサーになる第一歩として、5年生で、第1希望の放送委員会にはいりました。そして、3学期は部長になりました。私は、朝の校内放送の担当になり、ていねいに、ゆっくり話せるように勉強してきました。

6年生では、全校集会の時などにゲームの説明や、司会をし全校

を盛り上げるようなことをしています。

放送委員会の運営の計画や、実行を通して、放送に関係することをするだけでなく、次のような勉強もした方がいいと、先生から教わりました。

例えば、NHKのテレビやラジオのニュースなどを、アナウンサーの後に続けていってみることです。アクセントや発音の練習になるから、とてもためになるということなんです。私は今、時々この練習をしています。

次に、アナウンサーとして、大切なことは国際社会について、目を向けることです。

世界には、難しい大人の問題だけでなく、恵まれないかわいそうな子供達の問題や、環境破かいのことなど、勉強しなければならぬことが、たくさんあります。

私は、そんなことに気をつけて、テレビや新聞を見たり、自分達でできることを考え、実行していきたいと思っています。

私は明るく、元気なところがとありますが、少し優しさが不足しています。これからは、人柄をもっとみがいて、誰からも信頼されるような人間になるよう、努力していきたいと思っています。

そして、みんなに話すことの楽しさをもっと分かってもらえるよう、アナウンサーになりたいです。

十年後の私は、どこかでテレビがラジオで次のような、アナウンスをしているかもしれません。

「昨日、東京で世界子供サミットが開かれました。世界の二十数ヶ国から、子供達の代表が集まり、意見交換が行われました。その中で特に、目を引いたのは、今だに恵まれない子供達がいるということなんです。子供達の代表からは、世界中で助け合っていくにはどうすればよいのか素晴らしい意見が出されました。私達、大人ももっと真剣に考えないといけないようです。」

理想と現実



三股中学校2年 金田 直

ぼく達は、今「三股」という地で、生活しています。そして、この「三股」という地を通して、いろいろな事を学び取っている。

つまり「三股」という地はぼく達にとって「郷土」なのだ。

ぼくは、7月26日から7月31日にかけて、ふるさと振興人材育成国内研修派遣団員として、北海道に行った。

北海道では、雄大な自然を目の

前にして感じた事や気候の違いを直接肌を通して分かった事、動植物、そして北海道の人々とのふれ合いを終え、北海道と三股町を比較してみても発見した点、いわゆる北海道にあり三股町にない点、三股町にあり北海道にない点を見つけてきた。

三股町をよりよい郷土にするには、どうすればよいかという郷土の理想像について、この研修での体験の中から、また、普段の生活での体験の中から、考えたことを述べてみたい。

まず第一に考えたことは「自然が広がる環境を作る」ということです。人間が生活していく、豊かな心を創るには、自然環境が大事だとぼくは考えるからだ。

その環境から、子供つまりぼく達が成長していくために、自然とのふれ合いを忘れてはならないのではないだろうか。

第二に考えたことは「活気あふれる町」を作ることだ。このことは多くの面で大切だと思う。

一つの例を上げてみると、町民と町民同士が「あいさつ」を交わし、「あいさつ」という言葉を合言葉にすることだ。北海道は、とても「あいさつ」のある町だった。見知らぬ人に対しての「あいさつ」というものを小さい子から大人までの人がしっかりと身につけていて、あいさつをされた時、

とても気持ちよくなったのを覚えている。こうしたことから「あいさつ」をする、ほんの少しの動作が活気を作る第一歩になるとぼくは思うのだ。

第三に考えたことは「笑顔の絶えない町」を作ることだ。みんなみんな笑顔であつたら対面した人は、とてもすがすがしい気持ちになるであろう。そして、このほく達の郷土「三股」を愛してくれるはずだ。

第四に考えたことは、「ボランティア」を作ることだ。ボランティアとは奉仕の心という意味である。このボランティア活動を三股町民のより多くの人が自ら参加できたら、どんなにすばらしいことだろうか。また、そのボランティア活動を町民から町民へと風になら「三股」に広められていいたら、ボランティアの精神を作るといふことにつながるのではないだろうか。

以前ぼくもボランティア活動を行ったことがある。その時は一生懸命だった。ボランティア活動を全て終えた時、最後までやりとげたという喜びでいっぱいだった。そして、今、あの時ボランティアをして良かったという満足感がある。そのような面でも、「ボランティアの精神」を作るといふことは大切だと思う。

現在、ぼくは「郷土の理想像」

我が郷土



三股中学校3年 飯田 太樹

として四つの点を述べてきたわけだが、「理想」という文字を「現実」という文字に変えたいと願うならば、ぼく達三股町民が「現実」に向けて行動しなければならぬと思っている。

三股はやはり最も主流で町民なら一度くらいは踊ったことのあるところだ。親しみがある。その他に棒踊りなどもあるが、その郷土芸能に触れる機会があるのは、小中学生の頃くらいだと思う。すなわち、継承者が減少しているのではないかと。そうならないためには地区の運動会で踊るなどして、機会を増やしていく必要があるのではないかと。思う。

次に、交通事故で我が三股町はワースト10に入るといふ大変な名誉な実態がある。このことは、以前から問題になっていることだと思ふ。先日友達と遊びに行くときに事故らしきものを見た。救急車で運ばれるところだけだった。で、はつきりしない点もあるが、事故の恐ろしさを改めて痛感させられた。

事故というものは何の前触れもなく、いきなり襲ってくるもの。自分の不注意からなるものがあると思う。注意して防げるのならまだ、打つべき手はあると思う。

信号機の設置や、講演会を聞いたり他にもいろいろ方法はあると思うが、まずは、恐ろしさを認識してもらふことから始めるべきだと思ふ。

次に、町の整備面についてはどうだろうか。三股町は都市的ベッドタウンとして衛星都市的な役割を果たしている。それにと

ない、西の方はかなり発展してきているが、東の方はその反対で人口も少しづつ減少しつつあり、西の発展の陰に隠れているような気がする。長い目でみると、いつかはバランスのとれた町になると思うが、ぼくの希望としては町全体が同じレベルでいろいろな面で調和のとれた町作りをして欲しいと思っている。町作りという点では、空き缶の投げ捨てが多いというのが大変気になる。

自動販売機の増加やごみ箱の不足などが理由にあると思うが、考えてみれば、数年前、町内の各小中学校に、空き缶圧縮機を寄贈して頂いた。しかし、それを使う機会がまれにしかなく、昨年も三股中文化祭での空き缶製作の後始末で使ったくらいだったと思う。

それでは、宝の持ち腐れになってしまふ。日本人は、外国人に比べボランティア活動への関心が薄いとよく言われる。今、外国との交流が盛んになりつつある三股町では、「外国文化であるボランティア活動に参加することは名誉なことである」ということを町民に意識させ、培うことが重要になる。意識を高めることと並行して、例えば、集まった空き缶を圧縮機

にかけそれを町の資金としたり、外国の恵まれない国々の為に募金するなどしてさらに交流を深めるということも可能になると思う。

私の理想の人間とは



三股中学校3年 児玉 いずみ

「理想の人間」と言われると、たくさんありすぎて言葉にできません。考えるだけで、次から次にあなりたい、こうなりたいと、永遠に考えてしまいます。

それは私がまだ、一人前の人間に、大人になりきってないからだと思います。一人前の大人になるために、人は自分の理想の人間を思いうかべるのではないでしょう

か。私もその一人です。

私の理想の人間とは、いつも笑顔でいられる人。そして、泣いてる友達がいたら、泣きやむまでそばにいて、笑顔で「だいじようぶだよ」といえるような優しい人です。

私の将来の夢は、人のためにできる仕事につくことです。どんなつらいことでも、人が喜んでくれるような仕事につきたいと思っています。今の私は、それは看護婦ではないかと考えました。だから私は、看護婦の道に進んでいこうと思っています。

その道は、悲劇のヒロインのような、つらいことがたくさんあると、聞かれます。それでも、病気のなおった人の笑顔は、どんなに幸せな顔をしているのかわかりません。その笑顔が、たくさん見たいのです。

看護婦とは、人の気持ちを理解できる人でなければならないと思います。そして、根性があり、希望に満ちて、元気があつていて、いる人も必要だと思ふ。

しかし、患者の病気がすべてなおるわけではありません。限られた時間しか生きられない人がいるでしょう。それはとても悲しくて淋しいことだと思いますが、生きている間に最高の笑顔を見せて、力になって、生きることがどんなに大切かを、知ってもらいたいです。

そして、信頼できる、素直な人にもなりたと思います。
さて、今ここで、素直に将来の夢を話します。

看護婦というのは、私の目標としていた職業とでもいうのでしょ
うか。本当の夢は、誰かのために歌うこと。いわゆる歌手です。自
分の歌を日本中の人に、世界中の人にきいてもらって喜んでもらえ
る。そんな歌手になりたいのです。
でも、その道は簡単に実現するわけではないです。実現のためには、いろんな厳しい条件があり
ます。そのあたりを真剣に考えて今、看護婦になろうと決心しまし
た。

でももし、歌手になるチャンスがあれば、ぜひ、チャレンジしたいです。そしてその夢は、絶対に捨てないで、永遠に私の夢でありたいと思います。

私の理想の人間は、他にも数えきれないほどありますが、一つ一つ順序よく大人になっていこうと思います。これからは、看護婦の道に向かって、そして理想の人間になれるために、がんばっていこうと思います。

生きている間は、今の笑顔を決して忘れずに、いつまでも大切にしていきたいです。
そして、私の考える理想の人間をめざしてがんばろうと思います。

地域老人との

交流深まる

わかば保育園(赤池悦子園長幼児61名)は、子ども達に思いやりや、感謝の気持ちを養ってもらうため、町の福祉施設を訪ねたり、地域の老人クラブとの世代間交流を行っています。

施設訪問は、老人の方々と魚つりゲームなどして楽しみお遊戯を披露しています。また、寝たきり老人の方々は、花や手づくり弁当を届けるなど大変喜ばれています。地域の老人クラブの方々は、グラウンドゴルフの指導を受け一緒にゲームをしたり、老人の方々の手づくりのお手玉・竹とんぼで遊び交流を深めています。



あがな 贖いの日々

忘れられない 新年会の惨事

農業 23歳

一月四日、その日は、私にとって一生忘れられない運命の日になりました。私のこれからの人生の中で一生忘れなくてはならない大変な出来事があった日だからです。
私は、工場の県西部に位置する、水と緑が豊富な農村地帯に生まれました。家は代々農業を営み、私も長男として、高校を卒業した年から家で農業を手伝って生活してきました。

自動車の免許を取ったのも、高校を卒業した十八の春でした。それから事故を起こすまでの約六年間は無事故、無違反で、二回目の書き替えまであと二ヶ月というところでした。
自分では無事故、無違反をどこまで続けられるか、と慎重になっていたときでしたが、少しの気持ちの甘さが、取り返しのつかない重大な事故につながってしまいました。

その日は、正月を迎えて浮かっていた私の高校時代の友人たちとの新年会でした。年末からいろいろと酒を飲む機会が多く、体の方も大分疲れがたまっていました。私の家は農業なので、正月もいつもなら三日くらいまでしか休まないのですが、新年会があるというので四日まで休みにし、五日から仕事ということになりました。そのせいか、三日の晩に友人がきて酒に誘われたときも、明日も休みだから少しぐらいなら、と思い飲みにでかけました。そして、帰って来たのは、明け方近くになっていました。

それでも新年会は正午からだったので、十時頃に起きようとしていたが大丈夫だと思っていました。が、連日の疲れから寝過ごししてしまいました。私は、酒を飲まない友人に車に乗せてもらうつもりでいました。友人はすでに電話を入れたと、友人はすでに出かけたあとでした。
私の住んでいるところは交通といえど自家用車が主で、タクシーや電車は隣町まで行かないとな、バスも一時間に一、二本しか通りません。また、バス停までは家から二、三キロも離れているので、バスを使う気にもなかなかありません。それならば、他にまったく方法がなかったかというところ、そうはいえません。今思えば、飲んだら運転しないという確固たる意思があれば、いくらでも運転していい以外の方法を見つけることはできたと思います。しかし、その時の私は、飲んでも少しぐらいなら運転してもかまわないという気持ちがありました。また、今まで無事故、無違反ということもあり、自分の運転に過信していると、自分があつたと思います。今、考えれば、なぜあんな馬鹿なことをしたのかと悔やんでも悔やみきれません。

事故が起こったのは夜の9時半頃でした。昼から始まった新年会は二次会、三次会とすすみ、調子が悪いからあまり飲まないようにしようという最初の思いとは裏腹にすっかり調子に乗ってしまっていました。最後の店を出ると9時を少し回っており、そのときに



マナーの悪さを痛感

町壮年連絡協議会(中石高男会長)は11月23日、早朝に町内一斉空き缶拾いを実施しました。

協議会の三大目標の中に「奉仕」の実践化に結びつける目的で、各単位地区毎に主要道路の空き缶・ごみ拾いをしました。会員は、空き缶等の多さに驚き、持ち帰るよ

金婚17組おめでとう!!

昭和19年頃に結婚され、今年50周年を迎えられたご夫婦を祝う金婚式が、さきほど第1地区公民館で開かれました。

今回で9回目を迎え、山王原の高橋安恒さん(78歳)文子(69歳)夫妻ら17組34名が出席されました。式では、社会福祉協議会会長の山元町長が「太平洋戦争の最も厳しい時期、夫婦力を合わせ、子供さんを立派に育てられ、本当にご苦労様でした。今後、夫婦仲良く、いつまでも長生きしてください」とあいさつされました。



う新たに誓い合っていました。
協議会長は、マナーの悪さを改めて痛感し、今後、わが家庭で地域で「投げ捨てなどをしないように」呼びかけたいと語られました。

練習の成果を披露

第18回三股町剣道練成大会が11月23日、武道体育館で盛大に開催されました。

回数を重ねるに連れ権威ある大会に成長し、都城・北諸を始め宮崎市、小林市、清武町などから105チームが参加し、各部門に分かれ熱戦を繰り広げました。

【団体】

- 小学生男子の部 三股中央剣道
- 小学生女子の部 高城小学校
- 中学生男子の部 神武館
- 中学生女子の部 妻ヶ丘中学校
- 高校生男子の部 都城東高校C
- 一般の部 三股分會



70名がホールインワン

第6回国民年金杯グラウンドゴルフ大会が11月20日、三股橋河川敷で行われ、262名の参加があり盛大に開催されました。

大会は、年金法による老齢年金受給権者及び被保険者の健康と親睦を図り、国民年金の理解を深めて頂きたいと実施しているもの。成績は次のとおり

【男子の部】

- 第1位 山内 利幸(飯屋)
 - 第2位 伊藤 善雄(上新)
 - 第3位 川原 勝(東原)
- #### 【女子の部】
- 第1位 大重 露子(上新)
 - 第2位 伊藤ノブ子(上新)
 - 第3位 山元ミチ子(上新)

平成6年10月31日現在

交通事故(人身)

発生順位
県内 30位

(県内44市町村中)

これは悪い夢で、明日の朝起きればすべて消えていけばいい、そう思いましたが、翌朝起きてみると私は鉄格子の中でした。そして、昨日の男の人が亡くなったと知らされたのでした。

